

Tabloid Edition

Limited on Web

សៀវភៅ ក្រមា

Kroma

MAGAZINE

No. 9.5

2020 JUN-DEC

—Feature—

ENJOY ONLINE CONTENTS OF CAMBODIA

オンラインは楽しい！

ステイホームの今だから体験できる、カンボジアを感じるコンテンツをご紹介します。

—Trend—

ちょっと週末逃避行

ホテルで贅沢に過ごすひと時を



The Trip to encounters unknown Cambodia



オンラインは楽しい！

ENJOY ONLINE CONTENTS OF CAMBODIA



ステイ・ホームのこの時期だからこそオンラインツアーでカンボジアを満喫しよう！

1 サラスー・オンラインツアー SALASUSU Online Tour

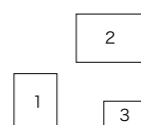
シェムリアップ郊外に工房を持ち、デザインにこだわったファッション・グッズを制作しているNPO法人SALASUSU。彼らの支援は単に雇用するだけではありません。農村部で貧困のサイクルから抜け出すことができない女性たちに、自分の力で生きる事を学ぶ機会を与えています。そんなSALASUSUの取り組みや、カンボジアの今、そして村の女性の日常を尋ねるツアーがオンラインにも登場しました。

シェムリアップ中心部から少し離れた住宅に囲まれた静かな場所にあるオフィス。ツアー担当の橋本さん、インターンの近藤さん、カンボジア人スタッフのナヴィンさんがオフィスの一室で準備をします。今日の参加者はカンボジアに来訪歴のある家族の方々。スタッフの自己紹介から始まり、リラックスした空気感の中、ツアーは始まりました。前半はSALASUSUの取り組みの紹介を参加者の質問に答えつつ橋本さんがスライドを交えてお話しします。少人数のZoomでのやり取りなので、会話するように進んでいきます。

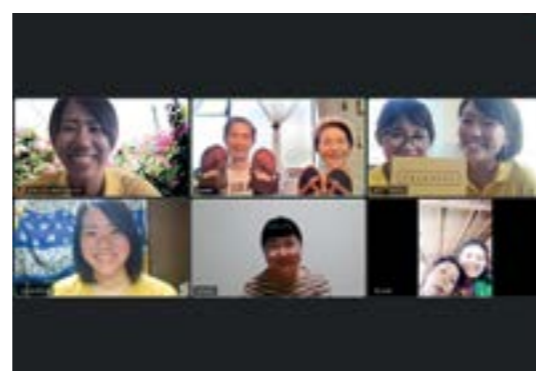


-人と繋がる、作り手の村を感じる旅がここにはある-

ツアー後半は、いよいよ実際の工房の様子とそこで働く作り手の女性との交流です。作り手の女性の自宅を訪ね、彼女たちが暮らす日常の中で交流します。お互いにリラックスした状態で、ゆっくりと紡ぐ時間はとても貴重な体験。家の周囲を案内してもらったり、彼女たちに質問したり、子どもたちが飛び入り参加したり、何が起るかはその時次第。そんなハプニングも楽しみのひとつです。単にその場所を訪れて見るのではなく、SALASUSUの考えに触れ、働き手の日常に触れる旅がそこにはありました。



1. 最初のアイスブレイクでの自己紹介タイムに笑顔で参加者と会話する橋本さんと近藤さん。
2. 村の女性との交流タイムの前に、クメール語の挨拶の練習を。カンボジア人スタッフのナヴィンさんも一緒に盛り上げます。
3. ツアーはZoomで行います。参加者と村の女性との距離が近く感じられる瞬間。

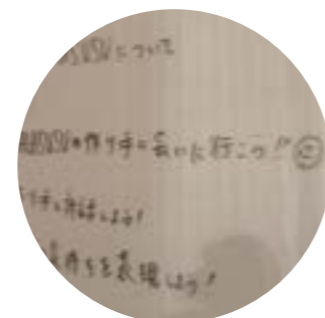


SALASUSU Online Tour

サラスー・オンラインツアー

SALASUSU

私たちがご案内します！



- 📅 不定期開催
- 🕒 申し込み時に時間を予約
- 📺 Zoom
- 👥 最大4組
- 📧 事前予約時に設定したメールアドレスにMeeting URLを送付
- 🌐 ウェブサイトの問い合わせ、もしくはメールで予約
- 🌐 salasusu.com
- ✉️ tour@salasusu.com

2 オンライン・カンボジア料理教室 CAMBODIA no GOHAN



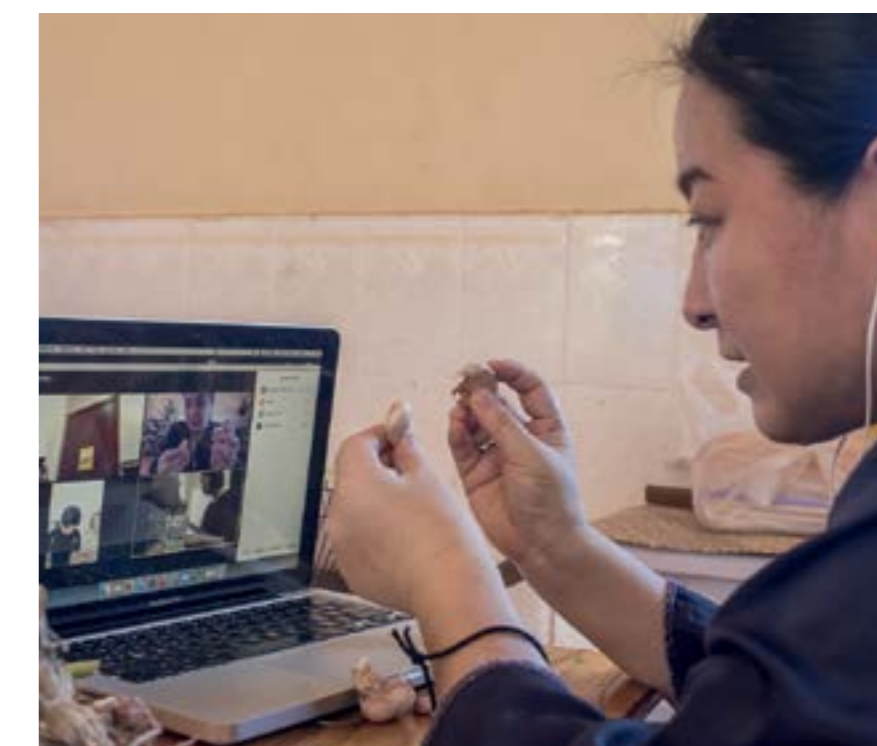
ダイレクトにカンボジアの食文化を体験

かつて水上集落で医療支援をする湖上ナースとしても活躍し、現在は地元のお母さんと協力してカンボジア料理教室を主催する前原さん。彼女が伝える料理は、市場で素材を購入し、地元のお母さんにレシピを教えてもらったまさに“カンボジアの家庭料理”。単なる作り方を習うだけでなく、カンボジアの家庭の空気や食にまつわる様々な逸話を楽しむ、そんな料理教室がオンラインでも開催されています。自分の家のキッチンが、“カンボジアの台所”に！

Zoomを使い、参加者と一緒に作りながら行う料理教室は、定員4組で常にアットホームな雰囲気です。事前にお買い物リストを渡して、参加者に材料を揃えてもらうところからスタートするお料理教室は、お買い物のコツや分量、そしてもちろん日本で手に入る代替の素材も提案してくれるので、日本から参加しても心配なしです。この日は、カンボジアの味噌汁的なポピュラーなスープ、“ソムロー・マチュー・クルーン(カンボジアのハーブの酸っぱいスープ)”。素材の切り方や扱い方も教えてもらいつつ、参加者それぞれで料理を進めていきます。また、料理を教えるだけでなく、カンボジアのお母さんのお料理の知恵や、時には日常風景のお話なども交え、ちょっとカンボジアへ旅に行った気分にも。できあがったらその場で試食タイム。カンボジアではちょっと遅めのお昼時、日本ではその日の夕食にもいい時間です。参加者それぞれ料理の感想を言い合い、食事を楽しみながら終了。肩肘張らない空気感は、やはりカンボジアのお母さんと一緒に料理してきた前原さんの料理教室ならではの雰囲気です。



1. 先生も生徒と同じく、一から材料を切っただけでお料理。作業テーブルにはカンボジアの素材や道具が並びます。
2. お待ちかねの試食タイム。食べながら参加者と今日の感想や料理のポイントを話します。
3. 食材の扱い方や切り方も丁寧に説明。普段目にする事のないカンボジアならではの食材も安心して扱えます。



CAMBODIA no GOHAN online cooking class

オンライン・カンボジア料理教室

一緒にお料理しましょう！

- 📅 土曜・日曜開催(9月以降は未定)※プライベートレッスンは随時開催
- 🕒 11:30~約2時間(8月以降、時間の変更有)
- 📺 Zoom
- 👥 最大4組
- 📧 メールアドレスもしくはメッセージにてMeeting URLを送付
- 🌐 Facebookからメッセージにて予約
- 🌐 @cambodianogohan
- ☎️ +855-(0)97-4100-107



3 APEX Online Tour

エーペックス・オンライン・ツアー

現地に根差す旅行代理店だからこそできるオンラインツアー

カンボジアで30年以上続く、現地旅行代理店APEX Cambodia travel service。創業者は内戦を生き抜き、日本に難民として訪れ様々な困難を経てこの旅行会社を立ち上げました。現在は、コロナウィルスの影響で現地在内することは難しい状況ですが、こうして長くカンボジアで根差してきた経験と繋がりで、オリジナルのオンラインツアーを企画しています。現地を訪れなくても楽しめるオンラインツアーは、まだまだ続きます。



実際に遺跡を訪れて解説してくれる遺跡ツアーでは、実際のツアーではなかなか行けない所にも行ってくれる。オンラインならではの細かい解説は、実際に行くのとまた違う楽しみがある。

"カンボジアを体験できる、あなただけの旅"を実現する様々なコンテンツ

オンラインツアーのラインナップは現在3種類、『オンライン・アンコール遺跡群ツアー』『日本語ガイドによるポルポト時代&内戦時代の体験談と現地を訪ねるツアー』『日本語ガイドによる、マニアク!?カンボジア史講座』。どれも、現地スタッフが厳選したコンテンツばかりです。案内するのは現地スタッフと、所属するベテランガイドの皆さん。ガイドの得意分野や経験したことを生かした内容で、日本にカンボジアの空気を運んでいきます。一見、かたい内容に見えるカンボジア史講座も、教科書では学べない視点を切り口に、ベテランガイドの豆知識を交えた解説で飽きさせません。遺跡ツアーでは、カンボジアの歴史や文化や、日常の逸話を交えた解説で、単に遺跡を訪れるだけでなく、次にカンボジアを訪れるのが楽しみになるような内容となっています。

現在催行予定のオンライン・ツアーの他にも、お客様の要望次第ではアレンジ可能とのこと。常にブラッシュアップが続くコンテンツは、今後も新しいラインナップが登場する予定。また、夏休みとなる今の時期は、子どもたちの自由研究にもなる遺跡ツアーも可能だ。今のカンボジアを体験すると共に、次にカンボジアに来るのが楽しみにする、そんな時間を体験できることでしょう。



雨期の現在は、鮮やかな緑で美しい表情を見せるカンボジアを自宅にいながら堪能できます。ベテランガイドさんそれぞれの持ち味を生かした話は、時間を感ぜさせません。



APEX Online Tour APEXオンライン・ツアー

- 📅 不定期開催
- 🕒 申し込み時に時間を予約
- 📺 Zoom
- 👤 ツアーにより変更
- 📧 事前予約時に設定したメールアドレスにMeeting URLを送付
- 📄 ウェブサイトもしくはメールにて予約
- 🌐 apex-cambodia.com/newservice_cambodia_onlinetour
- ✉ op@apex-cambodia.com

経験豊富なスタッフがご案内します！



*電波状況や悪天候などの場合、ツアー内容は予期せず変更になる場合があります。
*申し込みなど、ツアーに関してのお問い合わせは直接旅行会社にお問い合わせください。

TOPICS

in Phnom Penh & Siem Reap



メリディアン・アンコールがリオープン！

コロナウィルスの影響で一時的休業していたメリディアン・アンコールが7月15日より営業を再開した。再開に際して、入館時の検温やスタッフのマスク着用、手や各所の消毒など、コロナウィルスの対策も施している。在住者に嬉しい限定プロモーションなども開催中。雨期の緑豊かな庭園とレストランの美味しい料理とともに、リラックスした時間を過ごしてみたいか？

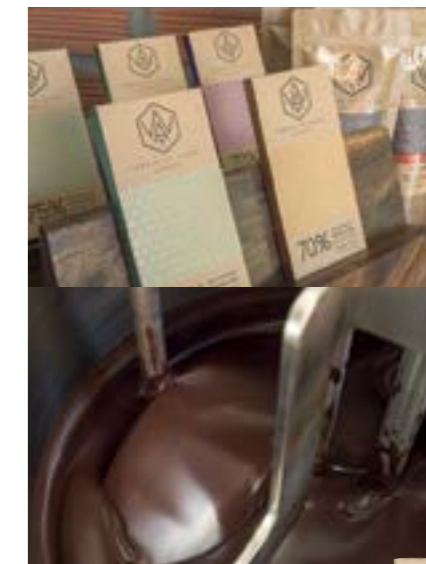
Le Méridien Angkor
A: Vithei Charles de Gaulle, Khum Svay Dang Kum, Siem Reap
T: +855-(0)63-963-900
W: marriott.com/hotels/travel/repmd-le-meridien-angkor
📍 Le Meridien Angkor
📍 <https://g.page/LeMeridienAngkor?share>



カンボジア初のクラフトチョコレートのWat Chocolateが新工房をオープン！

カンボジア初のビーン・トゥーパーのクラフトチョコレートメーカーのWAT Chocolate(ワット・チョコレート)。カンボジア国内での提携ショップで既に販売されているが、いよいよ、直営の工房兼ショップがオープンした。モンドルキリの提携カカオ農園のカカオとオーガニック素材のみを使用し、フランス人オーナー兼チョコレート職人の手によって丁寧に作られるチョコ

レートは、カカオの酸味が引き立つ大人のチョコレートだ。ガラスのファサードがお洒落な工房ではチョコレート製作の様子を見学することもできる。工房2階のソファ席でゆっくりと試食することも可能だ。カンボジアならではの個性的なフレーバーが揃うチョコレートバーの他に、トリュフなどの製品も販売している。



編集部おススメのKampot Sea Salt(左)とFresh Salted Kampot Pepper(右)

WAT Chocolate
A: Angkor Night Market St, Krong Siem Reap
T: +095 859 216
W: watchocolate.com
📍 WAT Chocolate
📍 <https://g.page/wat-chocolate?share>
Open from 14:00-17:00 (Sun close)



カンボジア国内旅行ブーム!? キャンプやホテルステイが人気

コロナウィルスの影響で海外旅行に行けないカンボジア人の中でひそかにブームなのが、田舎でのキャンプ。国内感染者が少ない中で、3密を気にせず大自然の中で過ごすキャンプはカンボジア人に人気だ。新たなキャンプ場なども増設されつつある。また、在住外国人に人気なのは、ゆっくりと過ごすホテルステイ。特にアクティビティをせず、リラックスして過ごすのが人気だ。

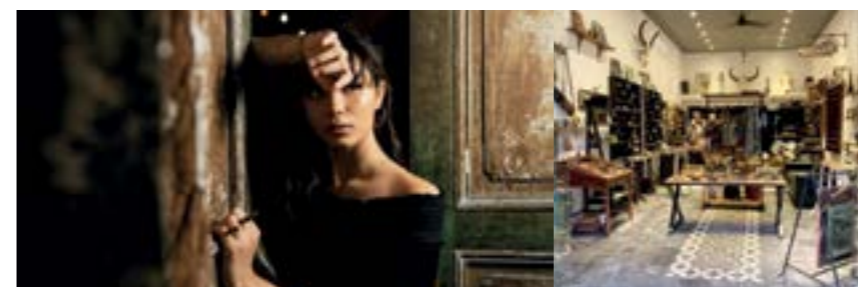


シュメリアアップで、マリンスポーツ!? ウェイクボードが気軽に楽しめるWake Parkがオープン

シュメリアアップ市内中心部から車で約15分の郊外にある、ウェイクボードパーク。ドイツのWAKEPARX®社製のウェイクボード牽引ワイヤーシステムを採用。子ども(10歳以上でライディング可能)から大人まで男女問わず楽しむことができる。ライディング場には上級者向けのトラックや、初級者でボードに乗れなくても楽しめるボード・オプションもあり、レベルを問わずウェイクボードを体験できる。小さな子ども連れの家族には、無料で利用できる人工ビーチやレストランもあるので、終日ゆっくり過ごすこともできるのも嬉しい。ギアは一式レンタルすることができ、ウェアを販売するショップもあるので気軽に訪れることができる。運営しているのはNPO法人ICFで、隣接している

施設には誰でも楽しめる人工池の遊び場や、学習支援をするキャンパスがある。ウェイクパークのスタッフにはこの学習・就業支援の卒業生を積極的に雇用。遊びながら、カンボジアのローカルビジネスへの支援にもなる。7月購入限定のプロモーションもあり、是非この機会にカンボジア初のウェイクパークを体験してみたい。

ICF Wake Park
A: ICF Campus Road, Siem Reap
T: +855-(0)95-882-421
W: icf-wakepark.com/wakepark
📍 ICF Wake Park
📍 <https://goo.gl/maps/g1y3tkDMUNz39CzBA>
Open from 11:00-18:00 (Sun closed)



ハイデザインなモノづくりで注目のブランド、Andkow & Co. のワークショップが近日Open

職人の手でひとつひとつ丁寧に手作りされた、革と真鍮製品のブランド、Andkow(アンドコー)の新ショップ&工房が近日オープン予定だ。場所は、ハイセンスなショップが集まる注目のショッピング・エリアのカンダール・ビル内。ショップでは、弾丸の空薬莢を溶かして製作した、真鍮製のアクセサリや、オリジナルデザインのハンドメイ

ド革製品などが並ぶ予定だ。

Andkow & Co.
A: #22, Mondul 1 Village, Svay Dang Kum, Quarter, Krong Siem Reap
W: andkow.com
📍 @andkow_co
📍 <https://goo.gl/maps/5sqVRK8M5A2tcEX47>



ちょっと週末逃避行

ホテルで贅沢に過ごすひと時を Why not go on a weekend short trip ?



森に浮かぶようにつくられたインフィニティプール。夕暮れ時は、森に沈むサンセットを望みながらリラックスした時間を過ごそう。

郊外の村に位置する、ラグジュアリーリゾート

ザ・ベイジ

THE BEIGE

シェムリアップ市内中心部から車で約40分の郊外の農村に2017年10月にオープンした、ラグジュアリー・グランピング・リゾート。10haの広大な敷地にわずか11部屋の贅沢なリゾートだ。カンボジアのどこにでもある長閑な村の赤土の道を進むと、突如現れるアプローチの入り口。ゲートをくぐり、緑に囲まれた砂利道を進んでいくと、ガラス張りのレセプションとレストランの建物に辿り着く。まさに日常の風景から非日常へと一気に引き込まれる。手入れの行き届いた敷地内には、自然の森とそれに馴染むプライベート・ガーデンにラテライトの石垣が映える緑美しい景色が広がる。風が木々をそよぎ、鳥がさえずる音が静かに聞こえ、ゆっくりと時間が過ぎていくのを感じられる。



テントと一言で言っても、キャンプ場で設置する簡易テントは一線を画す。テントとは思えないこの快適さはなかなか伝わらないだろう。植民地時代の探検隊をモチーフにしたインテリアや小物が、当時にタイムスリップしたかのような雰囲気を与える室内は、テントのベージュを基調としたシックな仕上げだ。テントはそれぞれプライベートガーデンで囲まれていて、自分だけの空間を満喫できるのも嬉しい。昼間は天幕を開け放って、周囲の緑を満喫しながらゆっくりと過ごし、夜は天幕を下ろし電灯のオレンジの光の下でしっかりとカクテルを、そんな贅沢な時間を楽しめる。中でも、Pool Deluxe Suite Tentは大きなプライベートプールに天蓋付きのプールサイドデッキ、リビングスペースとベッドルームがついた広々とした空間。目の前にはラステラスとその向こうに見える限り緑の森が広がる。アクティビティで、プールサイドに象を呼ぶこともでき、まさに非日常を体験できる。



1. 様々なリラックス空間が配されたPool Deluxe Suite Tent。
2. ラグジュアリーなピクニックは、冒険心をすぐくランドローバーで。
3. 周囲には森しかないロケーションの元、晴れた日には満天の星空が広がる。
4. ベージュで統一された室内は、どこか植民地時代を彷彿とさせるクラシックな趣。



ザ・ベイジの特徴の一つに、魅力的なアクティビティがある。リゾートがある村を訪問するピレジットツアーや、ピクニックセットを携えて村内をランドローバーでドライブし、長閑な風景の中でピクニックランチを楽しむツアーなど、多彩なプランがある。リゾート内でも、朝食時に象と過ごしたり、森に浮かぶように造られたプールの横でランチを楽しむなど、訪れる人それぞれに合わせて過ごすことができる。

THE BEIGE

ザ・ベイジ

Svay Chek Road, Svay Chek Commune,
Angkor Thom, Siem Reap, Cambodia
T: +855-(0)99-297-298
W: the-beige.com



【プロモーション情報】8月の宿泊が通常価格の30%off

カンボジア在住のカンボジア人及び外国人が対象、7月31日までのご予約で、8月の宿泊費が30%offに。

予約・お問い合わせは下記電話番号まで
099-297-298



ちょっと週末逃避行

ホテルで贅沢に過ごすひと時を Why not go on a weekend short trip ?

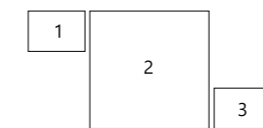


メコン川を望む、アーバン・リゾート

ザ・バレー・フノンペン

The Balé Phnom Penh

フノンペン市内中心部からわずか車で約30分、フノンペンの街の喧騒が嘘のような静かな場所にThe Bale Phnom Penhはある。18室の客室は全てスイートタイプ。モダンな中にもアジアのエッセンスを取り入れた建物は、ほっとリラックスできる空間を提供してくれる。建物の中央には緑の芝生、メコン川を望む川辺に配されたプールでリラクスタイムを満喫しよう。レストランTHEATOでは、アジアのエッセンスたっぷりのフュージョン料理を楽しもう。モダンで居心地の良いレストランで食事をするのもよし、より非日常を満喫したいなら、プールサイドでのシェフがサーブしてくれるプライベートBBQもおススメだ。フノンペンの都会の喧騒から、ほんのちょっとした逃避行を味わえる、そんなアーバンリゾートがここにはある。



1. シックな色合いでまとめられたベッドルーム。壁に掛けられたカンボジアの写真が印象的だ。
2. リビングスペース横の広いテラスでは、メコン川の朝日を望むことができる。
3. 朝食はメコン川に面した広いテラスで楽しむこともできる。パトラーの至れり尽くせりのサービスも嬉しい。



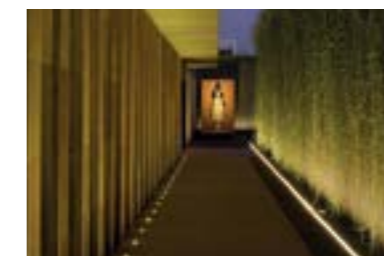
メコン川沿いに配置された建物からは、雄大な川辺の景色を望むことができる。中でも、Riverfront Suitesの客室からは、パノラマの眺望が楽しめる。キラキラと朝日を反射するメコン川を眺めながら、テラスで楽しむ朝食は格別だ。24時間対応のパトラーサービスで、さらに贅沢な気分になれる。洗練されたサービスを提供してくれるスタッフのほとんどはカンボジア人、地元採用をメインにしているのは、地域の雇用に貢献する為でもある。



The Balé Phnom Penh

ザ・バレー・フノンペン

National Road 6A, Bridge No. 8, Sangkat
Bak Khaeng - Phnom Penh, Cambodia
T : +855 023 900 425
W: thebalephnompenh.com
E : bliss@thebalephnompenh.com



【プロモーション情報】

ウェブサイトでは、おススメのお得なスペシャルオファーや宿泊パッケージを公開中。

詳しい内容はウェブサイトまで
thebalephnompenh.com/special-offers/



まだまだ、コロナウィルスの影響が色濃く残る世界情勢の中
気軽に海外旅行に行くのは難しいことだと思います。

ただ、この状況を悲観するのではなく
今だからこそ、やれる事に邁進していけたらと思っています。

カンボジアの変わらぬ美しい風景のように
編集部一同、変わらず伝える努力をして参ります。

最後にコロナウィルスに罹患された方々へのお見舞い
また亡くなられた方々へのお悔やみを申し上げますと共に
これからの希望ある未来が皆様の下に訪れますよう
編集部一同お祈り申し上げます。

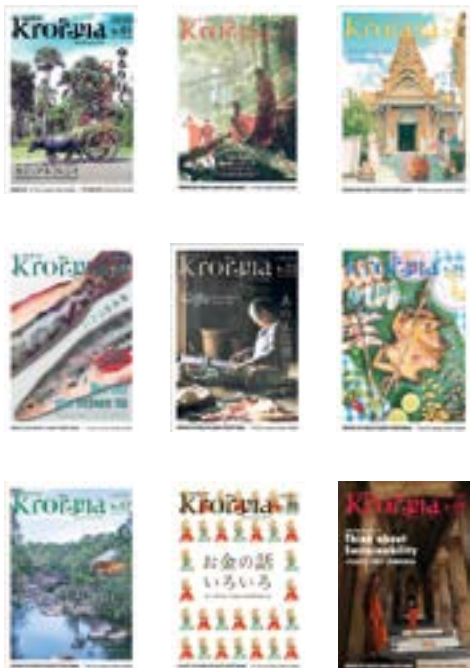
クロマーマガジン編集長 谷岡郁子

カンボジアの伝統布「クロマー」のように、ちょっと小粋で彩りを添えるモノをつくりたい。
そんな思いが生んだ雑誌が、カルチャー&旅行情報誌「Krořma Magazine」なのです。

Like the Cambodian traditional cloth "Krořma", want to make a something cool and colorful.
Such a thought create the Culture and Trip information magazine "Krořma Magazine".

Editor's
Note

កម្ពុជា ក្រុម
Krořma
MAGAZINE



媒体資料 / Media Information

言語：日本語、英語
Written by Japanese and English

発行月：年2回発行（1月,7月発行予定）
Halfly magazine (Issue on Jan and Jul)

判型：A4判 中綴じ
A4 Size, Saddle stitch

頁数：60~68ページ
60-68 pages

発行部数：20,000部（変動）
Circulation 20,000copies

創刊：2006年10月（2016年7月一時休刊、2018年1月より復刊）
First issued in 2006 Oct (suspend from 2016 Jul, reissue since 2018 Jan)

体系：無料誌
Free magazine

配布場所：プノンベン、シェムリアップ市内のホテル、レストラン、日系団体および企業、日本のAPEXオフィス（東京、名古屋、大阪、福岡）。PDF版はWebで無料配信。

Distributed at hotels, restaurants, shops, Japanese companies and organizations in Phnom Penh and Siemreap Reap, also APEX branch in Tokyo, Nagoya, Osaka and Fukuoka. Also latest issue ebooks will upload on Krořma web for free download.

発行元：APEX
Publisher：APEX CAMBODIA TRAVEL SERVICE CO., LTD.

企画編集：Krořma
Editing by：Krořma Media Company Lim. ^a

កម្ពុជា ក្រុម
Krořma
MAGAZINE

No.09.5

2020 JUL-DEC

2020年7月発行（ウェブ限定版）
禁・無断転載

発行: APEX Cambodia Travel Service 広報部 (Tel: +855 23-217-787 / 63-763-940)

企画編集: Krořma Media (Tel: +855 87-221-960 / 321-960 Addr: Unit #1502, Bldg. C7 The Fortune Tower 15F, The Olympia City, along St. 182, Phnom Penh)

Special
Thanks

